

立命館大学大学院  
2025年度実施 入学試験

博士課程前期課程

文学研究科

人文学専攻・日本史学専修

入試方式	実施月	コース	専門科目		外国語(英語)	
			ページ	備考	ページ	備考
一般入学試験	9月	研究一貫	P.1~		P.7~	
	2月		×		×	
	9月	高度探究	P.1~		/	
	2月		P.9~			
社会人入学試験	9月	研究一貫	×		/	
	2月		P.9~			
	9月	高度探究	/		/	
	2月					
外国人留学生入学試験 (RJ方式)	9月	研究一貫	P.1~		/	
	2月		×			
	9月	高度探究	×		/	
	2月		P.9~			
学内進学入学試験	9月	研究一貫	/		/	
	2月					
	9月	高度探究	/		/	
	2月					
APU特別受入入学試験	9月	研究一貫	/		/	
	2月					
	9月	高度探究	/		/	
	2月					

【表紙の見方】

×・・・入学試験の実施がなかった等の理由で入学試験問題の作成がなかったもの、または、問題を公開しないもの  
斜線・・・学科試験(筆記試験)を実施しないもの

立命館大学大学院  
2025年度実施 入学試験

博士課程後期課程

文学研究科

人文学専攻・日本史学専修

入試方式	実施月	外国語(英語)	
		ページ	備考
一般入学試験	2月	×	
外国人留学生入学試験	9月		
	2月		
学内進学入学試験	2月		

【表紙の見方】

×・・・入学試験の実施がなかった等の理由で入学試験問題の作成がなかったもの、または、問題を公開しないもの  
斜線・・・学科試験(筆記試験)を実施しないもの

※試験終了後、ホッチキスで綴じること(太線の4箇所)

2026年度 立命館大学大学院文学研究科入学試験問題

2025年9月6日

博士課程前期課程 人文学専攻  
日本史学専修

「専門科目」

全 9 ページ

●受験上の注意

- ① 試験中、冊子をばらしても構わないが、終了後再び綴じて提出すること  
(ホッチキスを貸与します)
- ② 全ての用紙に受験番号、氏名等を記入し、提出すること

●試験中の持込許可物件について

- ① 筆記用具、受験票、時計以外の持込は認めない



## 文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏名
人文学 専攻 (日本史学 専修)	前期課程	専門科目	<input type="checkbox"/> 研究一貫 <input type="checkbox"/> 高度探究		

問一 次の四題から一つを選んで、論述せよ。

(一) 「文章経国之大業、不朽之盛事」(曹丕『典論』論文)が平安初期に与えた影響について、論じよ。

(二) 日本中世の身分・集団について、知るところを述べよ。

(三) 近世における仏教の位置づけについて、知るところを述べよ。

(四) 「近現代日本と天皇制」というテーマで自由に論ぜよ。政治・法制・文化・社会・教育などいずれの観点からでもよい。

問二 次の六つの語句から四つを選び、それぞれ三〜五行程度で説明せよ。

- ① 鑑真
- ② 承久の乱
- ③ 鎌倉新仏教
- ④ 壬辰戦争
- ⑤ 軍人訓戒
- ⑥ 革新自治体

文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏名
人文学 専攻 (日本史学 専修)	前期課程	専門科目	<input type="checkbox"/> 研究一貫 <input type="checkbox"/> 高度探究		

問三 次の史料問題(一)～(四)の中から二つを選んで、解答せよ。

(一) 次の史料を読み、以下の問いに答えよ。

丙寅、副使大伴宿禰古麻呂自唐國至。古麻呂奏曰、大唐天寶十二載、歲在癸巳正月朔癸卯、百官諸蕃朝賀天子於蓬萊宮含元殿。受朝是日以我次西畔第二吐蕃下以新羅使次東畔第一大食國上。古麻呂論曰、自古至今、新羅之朝貢大日本國久矣。而今列東畔上、我反在其下。義不合得。時將軍吳懷實見知古麻呂不肯色。即引新羅使、次西畔第二吐蕃下、以日本使次東畔第一大食國上。

- (1) 史料の出来事は、何天皇の時のものか。天皇名を答えよ。
- (2) 傍線部を読み下しなさい。その際、旧字は新字(常用漢字)に直し、句読点も入れなさい。
- (3) (2)の内容に対し、大伴古麻呂はどのように抗議したか、史料に沿って具体的に記しなさい。
- (4) 古麻呂の抗議を受け、唐はどのように対応したか、史料に沿って具体的に記しなさい。
- (5) この出来事は、後にどのような影響を与えることとなったか、知るところを記しなさい。

黒板勝美・国史大系編修会(編)『新訂増補国史大系(普及版)続日本紀 前編』吉川弘文館、1976年、pp.219-220

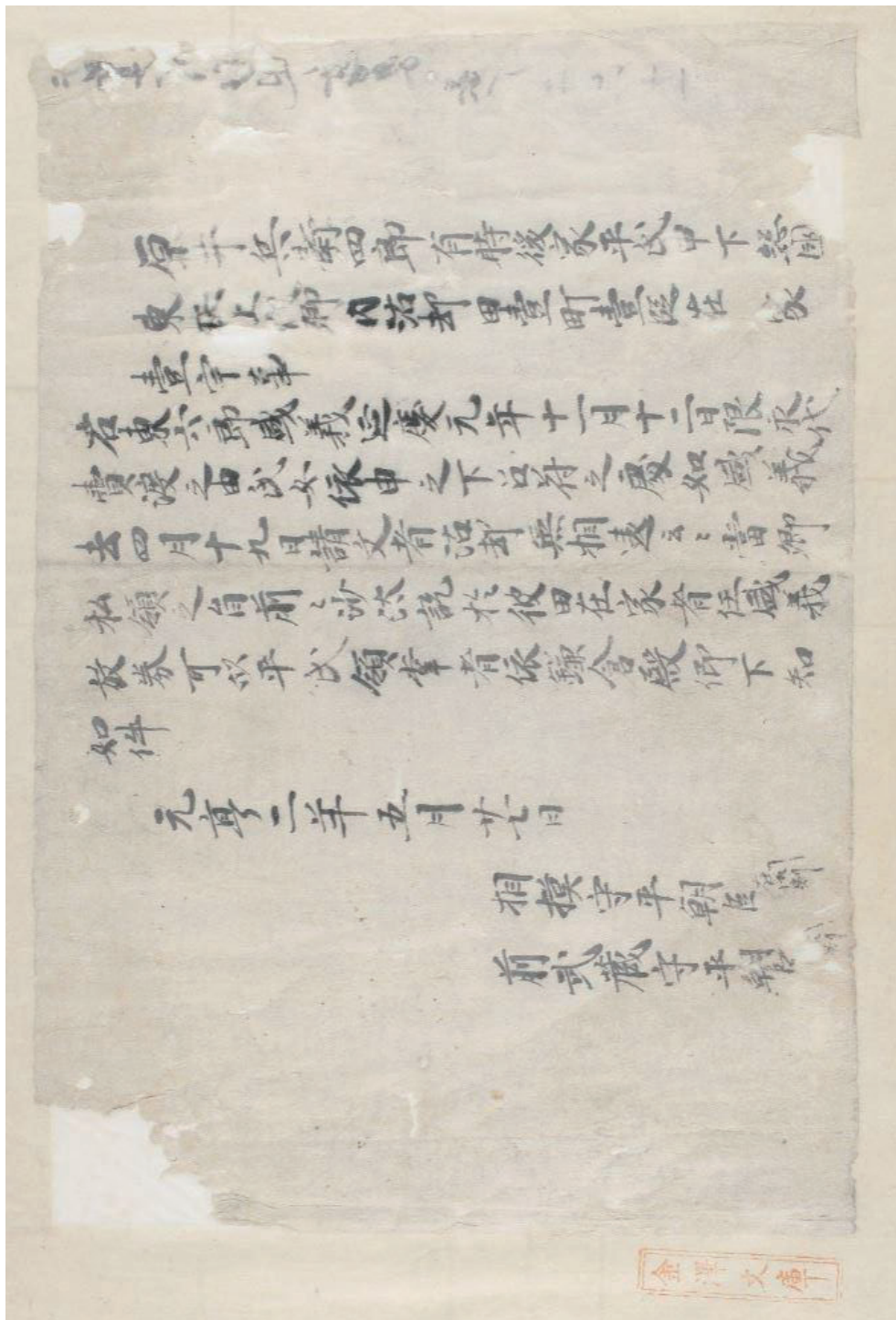
文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏名
人文学 専攻 (日本史学 専修)	前期課程	専門科目	<input type="checkbox"/> 研究一貫 <input type="checkbox"/> 高度探究		

(二) 次に示す古文書写真を読み、以下の問いに答えよ。

- (1) この古文書の釈文を作れ。改行は原文通りに行い、返り点・読点を付け、異体字・正字(旧漢字)は対応する常用漢字(新字)があれば、その類に改めよ。※端裏書部分は不要。なお、二行目の冒頭は「東庄上代」である。
- (2) この古文書に適切な文書名を付けよ。また、その根拠となる様式上の特徴を説明せよ。
- (3) この古文書の内容、および内容から読み取れる当時の土地売買の在り方について説明せよ。

〔出典〕 国宝 金沢文庫古文書データベース <https://kanazawabunko-db.pen-kanagawa.ed.jp/item/0055>



文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏名
人文学 専攻 (日本史学 専修)	前期課程	専門科目	<input type="checkbox"/> 研究一貫 <input type="checkbox"/> 高度探究		

(三) 次の史料を読み、以下の問いに答えよ。

一、慈悲は上からと云来れり。庄屋・は其所其村の中にては上也。上たる者下を哀み、思む事常也。随分其所に何事も出来せぬやうに、常々心に懸て仕置をすべし。(中略)

①若出入事、其外何にても六ヶ敷儀出来する時は、我身独の難儀と心得て、常に無事をはかるべし。是上たる者の慎也。(中略)

②今時世間を見るに、庄屋を争ひ、を論ず。是皆其者より上にならん事を欲し、<sup>③</sup>彼者より下に座せん事無念の事也なにと、蝸牛の角の上のあらそひをなす故也。尤浅間敷心也。(中略)

一、庄屋・其外の役人、\*五過の症有て、其村其所にては諸人のそしり有といへ共、前生の権力つよき故にや、御様のおとがめもなく、大きな恥辱を取事もなし。され共此者の終には衰ふべし。子孫に報ひて亡べし。

\*五過の症とは、中国古代の刑書に見える「官・反・内・貨・米」の五つの過失のこと。

[出典]『河内屋可正旧記』

(1) 空欄、に入る語をそれぞれ漢字で答えよ。ただし、には幕藩権力を指す用語(漢字二文字)、にはこの書物全体を貫くテーマである語(漢字一文字)が入る。

(2) 傍線部①を書き下せ。全てひらがなで記すこと。

(3) 傍線部②に関して、庄屋職をめぐる争いに加えて、この書物が書かれた十七世紀末から十八世紀初頭の畿内・近国では、前期村方騒動が生じていた。その特徴について、知るところを述べよ。

(4) 傍線部③について、適宜意味を補いながら、現代語訳せよ。

文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏名
人文学 専攻 (日本史学 専修)	前期課程	専門科目	<input type="checkbox"/> 研究一貫 <input type="checkbox"/> 高度探究		

(四) 次の史料を読み、以下の問いに答えよ。

① 京都ハ内外ノ人京都ヲ称シテ美術ノ淵源ナリト云。此名誉ハ美ニ喜フヘク賀スヘク又内キ次第ナリ。然レトモ京都ノ美術工業ハ古ニ比シテ進ミタリヤトノ問ニ接シテハ甚々答ニ苦マサルヲ得ス。何トナレハ、絵画ナリ、陶器ナリ、漆器ナリ、織物ナリ、其一部分ノ進歩ヲ見ル者ナキニシモ非スト雖、概括シテ之レヲ論スレハ、百年以前ニ比シテ意匠ト云、手術ト云ヒ、一歩ヲ譲ラサルヲ得サルナリ。之レニ反シテ石川県ノ巻(蒔)絵、<sup>②</sup>尾州ノ陶器、足利・桐生ノ織物・染物等、其他各府県ノ工業ハ近来著シク進歩ヲ見ル。是レ畢竟京都ハ虚名ニ安シ名誉ニ安スルニ怠リ、他府県ハ攷々及々京都ノ上ニ出ント奨励スルノ力ニ由ルニ在ルノ功ナリ。之レニ由テ見レハ其名誉ハ京都ノ工業ヲ害スル毒薬ト云モ過言ニ非サルヘシ。京都ノ盛衰ハ美術ノ盛衰ニ添フ者ナリ。京都市団体モ亦美術ノ隆盛ヲ図ラサレハ己レノ身体ヲ□ノ健康長命家内安全息災延命ヲ得ルコト能ハサルヘシ。

出典：『塵海』明治二十二年十二月三十一日 漫録

(1) 傍線部①をひらがなに直せ。

(2) 傍線部②について、産地名を挙げよ。

(3) 本史料は京都府知事の日記の一節である。この知事のフルネームを挙げ、明治前期に京都府が美術・工業の発展のために行った施策について簡潔に説明せよ。

※試験終了後、ホッチキスで綴じること(太線の4箇所)

2026年度 立命館大学大学院文学研究科入学試験問題

2025年9月6日

博士課程前期課程 人文学専攻  
日本史学専修

「外国語」(英語)

全 3 ページ

●受験上の注意

- ① 試験中、冊子をばらしても構わないが、終了後再び綴じて提出すること  
(ホッチキスを貸与します)
- ② 全ての用紙に受験番号、氏名等を記入し、提出すること

●試験中の持込許可物件について

- ① 英語辞書の持込は認める  
(電子辞書・専門用語辞書は不可)
- ② 上記①の他には、筆記用具、受験票、時計以外の持込は認めない



2026 年度入学試験 (2025 年 9 月実施)

## 文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏名
人文学 専攻 (日本史学専修)	前期課程	外国語 (英語)	研究一貫		

次の英文を和訳しなさい。

Amino (1987) identifies three principles or elements characterizing “urban place”: *kugai* (公界), *muen* (無縁), and *raku* (楽). I will explain below what these terms mean, but first let me note that they are indigenous historical concepts that emerged in Japan during the medieval period. Together they form a set of mutually reinforcing and interdependent social concepts. In the present day, however, their use is rare (at least in the senses described below).

The concept of *Kugai* (公界) perhaps resembles most closely the public sphere known in Europe. Derivationally, the word is a compound of two elements: *ku* (also more commonly pronounced *kou* (公)) meaning “public,” and *gai* (界) (more usually pronounced *kai* (界)) meaning “realm” or “world.” As in English, the word *kou* (公) can refer either to the notion of public authority (i.e. the state), or to the “public” of the “public sphere” (which is independent of the state). *Kugai* (公界) refers to the latter sense of the “public.” At the end of the medieval period and beginning of the early modern period in Japan (around the year 1600), these two different forms of the “public” came into headlong collision. The public authority of the warlords (*daimyou* (大名)) effectively crushed the previously existing *Kugai* “public” centred in the towns. This strengthening of state power led to the eclipse of the *Kugai*. As a result, the word has now dropped out of use in the Japanese language.

*Muen* (無縁) is a key defining principle of the *Kugai*. It refers to the property of something being unconnected or unbound. Such freedom implies the absence of ownership, and indeed the absence of any restrictive social ties involving legal or communal obligation. This lack of connection was itself informally institutionalized providing a space for the existence of the *Kugai*. It was manifest concretely in the areas of land, such as mountains, uncultivated land, riverbanks, beaches, cemeteries, sacred land and roadways, which were not seen as being owned or linked to anyone in particular. These areas provided a physical space where various activities, including trading, solicitation of charitable contributions or religious offerings, open-air entertainments and certain types of ritual, could be carried out independently of public authority. It was also in such places, especially around marketplaces, that independent towns first developed.

正誤 第三段落 第一行 第二文冒頭

(誤) If

(正) It

※出典とした原著の誤植です

(全 3 頁の 1)

※試験終了後、ホッチキスで綴じること(太線の4箇所)

2026年度 立命館大学大学院文学研究科入学試験問題

2026年2月8日

博士課程前期課程 人文学専攻  
日本史学専修

「専門科目」

全 10 ページ

●受験上の注意

- ① 試験中、冊子をばらしても構わないが、終了後再び綴じて提出すること  
(ホッチキスを貸与します)
- ② 全ての用紙に受験番号、氏名等を記入し、提出すること

●試験中の持込許可物件について

- ① 筆記用具、受験票、時計以外の持込は認めない



## 文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏名
人文学 専攻 (日本史学専修)	前期課程	専門科目	<input type="checkbox"/> 研究一貫 <input type="checkbox"/> 高度探究		

問一 次の四題から一つを選んで、論述せよ。

(一) 「陰陽道とは何か」というタイトルで自由に論ぜよ。

(二) 中世日本における列島の分割統治について、自由に論述せよ。

(三) 幕藩制国家の成立過程について、知るところを述べよ。

(四) 「日本近現代における戦争」というテーマで自由に論ぜよ。

戦争は内乱、対外戦争のいずれでもよいが、できるだけ総合的に論ずること。

問二 次の六つの語句から四つを選び、それぞれ三〜五行程度で説明せよ。

① 二条大路木簡

② 和賀江島

③ 後法興院記

④ 慶安の御触書

⑤ 琉球処分

⑥ 大学紛争

## 文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏名
人文学 専攻 (日本史学専修)	前期課程	専門科目	<input type="checkbox"/> 研究一貫 <input type="checkbox"/> 高度探究		

問三 次の史料問題(一)～(四)から二つを選んで、解答せよ。

(一) 次の史料を読み、以下の問いに答えなさい。

(天平宝字七年)五月戊申、大和上(①)物化。和上者楊州龍興寺之大德也。博涉經論、尤精戒律、江淮之間獨爲化主。②天寶二載留學僧榮叡業行等白和上曰佛法東流至於本國雖有其教無人傳授幸願和上東遊興化辟旨懇至諮請不息乃於楊州買船入海而中途風漂船被打破和上一心念佛人皆賴之免死。至於七載更復渡海、亦遭風浪漂着日南。時榮叡物故、和上悲泣失明。勝寶四年、本國使適聘于唐、業行乃說以宿心。遂与弟子廿四人、寄乘副使大伴宿禰古麻呂船歸朝、於(③)寺安置供養。于時有勅、校正一切經論。往々誤字諸本皆同、莫之能正。和上諳誦多下雌黃。又以諸藥物令名眞僞、和上一々以鼻別之、一無錯失。④聖武皇帝師之受戒焉。及皇太后不忿、所進醫藥有驗、授位大僧正。俄以綱務煩雜、改授大和上之号、施以備前國水田一百町、又施新田部親王之舊宅以爲戒院。今(⑤)寺是也。和上預記終日、至期端坐、怡然遷化。時年七十有七。

〔出典〕黒板勝美・国史大系編修会編『新訂増補国史大系(普及版)続日本紀』後編(吉川弘文館、一九七六年)

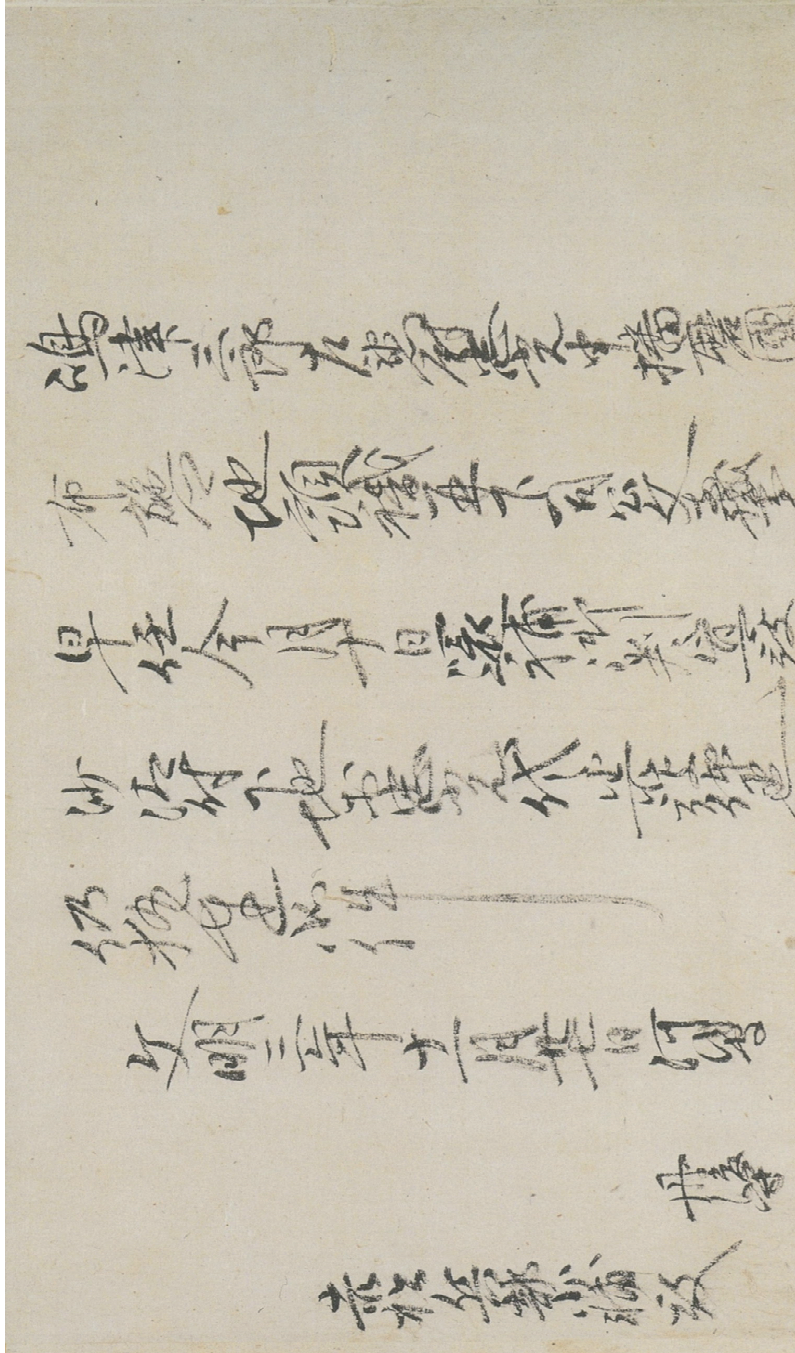
- (1) 史料中のカッコ①③⑤に入ることばをそれぞれ漢字二文字で記しなさい。
- (2) 傍線部②を読み下しなさい。その際、旧字は新字(常用漢字)に直し、句読点も入れなさい。また、文中の「曰」がどこまでかかるのかを「」を用い、明確に示しなさい。
- (3) 傍線部④について、その歴史的意義について述べよ。

## 文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏名
人文学 専攻 (日本史学専修)	前期課程	専門科目	<input type="checkbox"/> 研究一貫 <input type="checkbox"/> 高度探究		

(二) 次に示す古文書写真に関する設問 (1) ～ (4) に答えよ。

- (1) この古文書の釈文を作れ。改行は原文通りに行い、返り点・読点を付け、異体字・正字 (旧漢字) は対応する常用漢字 (新字) があれば、その類に改めよ。
- (2) この古文書の読み下し文 (書き下し文) を作れ。
- (3) この文書は案文である。そのように判断できる理由を二つ述べよ。
- (4) この文書が縦紙に記されているのはなぜか。説明せよ。



出典：国立歴史民俗博物館所蔵『越前島津家文書』第一巻  
 (『企画展示 中世の古文書 - 機能と形』54 頁、国立歴史民俗博物館、2013 年)

## 文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏名
人文学 専攻 (日本史学専修)	前期課程	専門科目	<input type="checkbox"/> 研究一貫 <input type="checkbox"/> 高度探究		

(三) 次の史料を読み、以下の問いに答えよ。

(元和元年霜月)

廿七日、大御所江戸還御、乗燭之比、本多佐渡守従去秋病癒復本、<sup>①</sup>始而出御前、御記曰、久々病癒、大形本復、  
御喜悅被思召之旨云々、

(同年極月)

三日、明四日江戸出御可被成之旨被仰出、<sup>②</sup>大榎新城渡御、御閑談移刻、本多佐渡守候側云々、

(中路)

十五日、辰刻、三島出御、近所泉頭<sup>③</sup>為勝地之間、御隠居可被成之旨被仰出、来春御隠居云々、

[出典] 『駿府記』

(1) 傍線部①について、主語を補いながら、現代語訳せよ。

(2) 傍線部②の人物名を漢字で答えよ。

(3) 傍線部③を書き下し文にせよ。全てひらがなで記すこと。

(4) 傍線部③に関して、隠居城を築くにあたっては、公儀普請が予定されていた。公儀普請について、知るところを述べよ。

(5) 出典の『駿府記』の作者は、後藤光次、もしくは林羅山と推測されている。彼らについて、知るところを述べよ。

